

| | |
|----------|---|
| 委員会名 | 平成29年度第6回 足立区男女共同参画推進委員会 |
| 日時 | 平成29年12月6日(水) 午後2時～4時 |
| 会場 | L. ソフィア 3階 第二学習室 |
| 出欠状況 | 委員現在数13名 出席者数9名 |
| 出席者 | <p>【委員】 石阪督則委員長・中川美知子副委員長・乾雅栄委員・本間博子委員・長谷川幸恵委員・清水典子委員・遠藤美代子委員・西村真海委員・猪野純子委員</p> <p>【事務局】 下河邊純子区民参画推進課長、佐藤仁彦男女共同参画推進係長、望月孝志男女共同参画推進係主事、宇根紅桃男女共同参画推進係主事、稲葉共同参画指導員</p> <p>【傍聴者】なし</p> |
| 会議次第 | 別紙のとおり |
| 配布資料 | <p>【本日の資料】 資料1：平成29年度第5回推進委員会の要点 資料2：平成29年度年次報告書(作成途中)</p> |
| 発信者(敬称略) | 議 事 内 容 |
| 下河邊 | 前回の振り返り |
| 石阪 | <p>今回が最後の委員会となる。次回は区長に提言することになるため年次報告の作成に向けて議論を深めていきたい。</p> <p>まずは、企業・区民へのワーク・ライフ・バランスの周知について。</p> <p>資料によると、男性セミナーの受講者が今年になって激減しているのはなぜか</p> |
| 下河邊 | 去年は庁舎ホールを使って大規模な講座を行っていたため規模が違う。 |
| 石阪 | 区民まつりの数は増えているがこれはなぜか。 |
| 下河邊 | 去年は雨だった。天候によって左右される。 |
| 石阪 | <p>数値としては全体的に少し落ちている気がする。</p> <p>委員の意見としては、どうだろうか。どうすれば企業が関心を持ってもらえるだろうか。</p> |
| 遠藤 | <p>信用金庫が地域密着の金融機関なので、たくさんの〇〇会というものがあって年数回行事がある。</p> <p>地元の信金と企業の集まりがあるのでパンフレットを配布するということができるのではないかと。</p> <p>WLB認定企業の冊子を配って、そこに取引企業が掲載していたりすれば目に留まりやすくなる。</p> |
| 下河邊 | 信用金庫にはガイドブックを置かせてもらったり、行員さんに持ち出してもらっているが、行政から直接働きかけを行うことも大事だと認識している。 |
| 石阪 | 企業間交流会で直接配布することも効果があると思う。 |
| 下河邊 | 一昨年はメッセで講演をさせてもらったが、昨年からはシステムが変わりエントリー制になった。 |
| 石阪 | 企業に区のほうからダイレクトに広報が行くようになればいい。 |
| 中川 | <p>ある社会福祉法人では、自分たちでワーク・ライフ・バランス応援ガイドブックを作成している。</p> <p>事業所の具体的な話を盛り込んで一冊の本にしている。かつて足立区が出したものを基盤にしている。若手が多い事業所なので、若手中心にプロジェクトを組んで作っている。働き方やメリットを丁寧に掲載している。ぜひハローワークに置いたり、区のほうでも啓発に使ってもらえるといい。</p> <p>ここまではワーク・ライフ・バランスについて研究、実践をしている。その作り上げるプロセスこそが大事である。これは区がワーク・ライフ・バランスに特化した事業を展開してこなければ</p> |

| | |
|-----|---|
| | ば、こうはならなかったはずである。 |
| 石阪 | アイデアとしては、今後冊子を配布するだけではなく、作るプロセスから企業に入ってもらいたいのではないかな。 |
| 中川 | プロセスが大事だと認識している。それを区が仕掛けていくのが適任ではないかな。 |
| 石阪 | 認定企業や認定を望む企業の従業員に集まってもらって、年に数回でもいいので場を持ってもらってもいい。企業研修を兼ねてやるのもいい。 |
| 中川 | 企業内の活性化にもつながってくる。 |
| 本間 | 高校生でワーク・ライフ・バランスの冊子を配ったりはしているか。 |
| 下河邊 | 第7次の計画で若年層の啓発を位置づけているが、今のところ行っていない。 |
| 中川 | 高校あたりにはぜひ就職先を選ぶ際の参考にしていただきたい。 |
| 本間 | 中小企業は地域密着型で子ども達の交流もあるのでぜひ行っていただきたい。 |
| 本間 | 足立区の広報に毎回決まった枠を設けて見てわかるような大きさで掲載できないかな。 |
| 下河邊 | 毎回満載で難しい。情報誌を年3回出してそれには掲載している。 |
| 石阪 | ある自治体では、広報の枠を使ってワーク・ライフ・バランスについて掲載を依頼されていたことがある。連続で啓発することが大事だということで掲載していた。 |
| 本間 | 優良企業や従業員を載せて紹介するのもいい。 |
| 中川 | 人の顔が見えたり、継続して語ることが大事。 |
| 石阪 | 紙媒体が難しいのであればネットを通じて掲載するのもいい。 |
| | 男女の多様な働き方の支援について |
| 石阪 | 施設は増えているのか |
| 下河邊 | だいぶ増えてきている。 |
| 石阪 | 認証保育園は減っている |
| 下河邊 | 認可保育園に移行したりしたため減っている。 |
| 石阪 | 学生がインターンシップで保育園に行ったので話を聞いたら、やっぱり慢性的に人が少ない。その結果、一人当たりの労働が多くなる。過重労働が増えていき、体を壊してやめていくという悪循環となっている。新卒も今は景気がいいので保育士のなり手がいない。保育士の資格を持っていても、条件のいい民間企業に就職する人もいる。また、保育士にはなりたくないが、保育の仕事には関りたいからデスクワークで保育園の事務で働きたいという人が多いようである。保育士が大変なことは学生もよくわかっているようだ。 |
| 中川 | 延長保育施設が多くなっている。これは、保育士の労働時間も延長していることになる。潜在保育士を活用して、育児中の保育士は早く帰れるような仕組みがあるといい。 |
| 石阪 | 正職員の労働時間を延ばすのではなく、潜在保育士や子育てが終わった先輩保育士を活用して短時間労働で補って負担を軽減する。 |
| 西村 | 施設に余裕があればできるが、人を雇う余裕が無い。特に私立だと厳しい。 |
| 石阪 | 子どものお昼寝中も書類を作成していて休む時間もない。 |
| 本間 | 保育園でワーク・ライフ・バランスの認定企業になっているところはあるか。 |
| 下河邊 | いくつかある。 |
| 本間 | 何か特典があるといい |
| 石阪 | 家賃補助はある。男女共同参画の視点から考えると、保育所をどうするかよりも働いている保育士に対してインセンティブをつけてあげないといけない。今は定員を増やすとか施設を増やすなど、 |

| | |
|-----|--|
| | どちらかというと待機児童を減らす方に向いている感がある。むしろ保育士の処遇を区として考えていけないといけない |
| 本間 | 民間でも処遇のいいところには人が集まる。そのような企業の見学会などを区として企画することもいい。目標をどこに定めるかを男女参画で具体像を示してあげることも必要だ。 |
| 石阪 | 保育士の質の向上や定着率が上がったことをどのように数値化していくか |
| 清水 | 勤続年数、離職率を数値目標化してもいいのではないかな。 出産して復帰した数値も出すと具体的になる。ハコモノだけの数値だけではなく、働いている人の姿が見えるようにする。 |
| 本間 | 育児休業の取得率を出すと、安心して休職できる施設だとわかってもらえるのではないかな。 |
| 石阪 | 預ける側からすると、区の施設に対してどうだろうか。保育園は働いている人はいいが、無職の人にとって入園は高い壁となる。 |
| 長谷川 | 入園の申込そのものが成り立たない。 |
| 石阪 | それを埋めるための何らかの支援が必要だ。 |
| 長谷川 | そもそも保育園は働いている家庭の子どもを預かる施設になっている。今現在仕事が決まっていたり、内定をもらっていないと、保育園の優先順位が低くなる。かといって預け先が決まらなないと就職もできないという現実がある。つなが的な保育制度を利用してその後で保育施設の確保を目指すという流れがある。 |
| 本間 | それを教えてくれるセミナー等はあるか |
| 長谷川 | マザーズハローワークでは、就職準備のためのセミナーの中に盛り込んでいる。どちらから始めればよいかの相談は必ずある。初めて相談に来た人の45%が保育支援者もいないし、保育施設も決まっていない状態での相談で来る。同時に進めていくような話になるが、強いて言えば保育施設を先に見つけるように進めていくことになる。会社は保育のことは調整してくれないので、会社が決まると同時に当たりをつけた保育施設に申込みのような流れを作るようにしている。 |
| 石阪 | 企業側の理解は難しいか。保育が決まっていなくても受け入れるのは難しいか。 |
| 長谷川 | 今の時点で4月の内定を出してくれる会社は、学生並みの内定準備期間が必要。事情をわかっていて内定を出してくれる企業は足立区では無い。保育施設が決まるまでは会社につれてきてもいいという企業もあるが、小さな会社だから対応ができるというところがある。 |
| 石阪 | そのような企業を行政がピックアップして紹介していくことがあってもよい。 |
| 長谷川 | 企業内保育をする会社を紹介して周知することで少しずつ回りに理解してもらえることにもなる。 |
| 石阪 | 保育施設を整えるだけでは問題は解決しない。保育制度や施設をつないでいくようなことを区として説明するのは難しいが、その仕掛けが整えられれば足立区に入ってくることも多くなるのではないかな。 |
| 下河邊 | 小規模保育は仕事をしていなくても入れるのでそれをつなぎにすることもできる。 |
| 長谷川 | 足立区ではないが、ある区で5人規模の保育施設を申請して許可がでなかったが、別の区では許可が下りた。条件を緩和することで受け入れ態勢の拡大をする余地はある。 |
| 石阪 | 規制緩和して民間に参入してもらうことになれば多様性ができる。多様性の中から選べるような区になってほしい。 |
| 本間 | 弁護士会で研修をやるが、その際は無料で保育をしてもらえる制度がある。 足立区で行う全てのセミナーや講座に保育士がいるような状態にできるか |
| 下河邊 | このエルソフィアであれば子ども室があるので可能だが、区役所だったりすると難しい。 |
| 本間 | マットが敷いてないと駄目なようだが、あまり荷物にもならないのでできるのではないかな。 |
| 石阪 | それができれば足立区の売りにならないだろうか。参加しやすくなるし、PRにもなる。 |

| | |
|-----|--|
| 猪野 | エルソフィアでセミナーがあったときに、ホールの子どもスペースで年配の方が3人付いて子どもを遊ばせていた。そういったことが可能になればいいと思う。保育士でなくても面倒を見てくれる人がいると参加しやすくなる。 |
| 乾 | 審議会で若い女性の意見を求めたいときに、保育が付かないと公募でも応募できないので、区役所の一室に保育室があるといい。 |
| 石阪 | ある市役所では入り口のすぐそばに保育場所があって、何か用事があればそこで預けられる。画期的だと感じた。 |
| 本間 | 応援隊にやってもらえればいいのか。 |
| 乾 | 必ずしも子どもに関する審議会だけではなく、まちづくりなど、全ての審議会で保育をしてもらって子育て世代の人に入ってもらいたい。 |
| 石阪 | 区として子育てに前向きである姿勢をどのように示すのかは大事。保育つきのものが区としてスタンダードにある状態にすればインパクトある。区施設の目立つ場所に保育室があればPRになる。 |
| | 男性にとってのワーク・ライフ・バランスの推進について |
| 石阪 | 男性が子育て期にイベントに参加しやすいようにするにはどうすればよいか。まずは子育て期の男性の地域活動については、事業実績は前年とあまり変わっていない。おやじの会は開催しているというだけのものか |
| 下河邊 | 直接的な支援ではなく、自主的なもの。 |
| 石阪 | 各学校に必ずあるのか。ネットワークとかはあるか |
| 西村 | ネットワークは無い。小学校、中学校のそれぞれで作っている。 |
| 石阪 | ネットワーク化は難しいか |
| 西村 | 難しい。父親はそういったものを作っていくのは難しい。ソフトボールなどの大会はあるがそれだけ。大会の後の飲み会はネットワークになるのかもしれない。ただ、各学校のネットワークというよりは自校だけのネットワークになる。 |
| 石阪 | シニアの地域活動については委員から提言があったが、子育て世代の父親に限って何か意見はないか。仕事があって、家庭があるから難しいが、なんとか地域に目を向けられないだろうか。 |
| 乾 | 子ども会とかはどうだろうか |
| 西村 | 役員のなり手がなくて休止している町会もある。他の町会も縮小化している。 |
| 石阪 | 子ども会に変わるようなネットワークがほしい。 |
| 本間 | 朝運動をするのはどうか。 |
| 西村 | 夏のラジオ体操は参加してくれる子どもはいるが、父親の参加はわずかである。 |
| 石阪 | 働いている父親にも何かメリットがないと、負担だけだといくら地域のためとはいえ参加はしてくれない。 |
| 本間 | 体力向上委員会を作り、体脂肪率が減らすことを目指すのもいいのではないか |
| 清水 | 若い父親は子どもが生まれる前後から関わっている。子育てに関する悩みは持っているとは思いますが、それを話してみる場が父親にはない。父親もそれを求めているのではないか。働きにいけばそれでよいと父親皆が思っているわけではない。父親が悩みを開放する場がないと、地域に入って行きづらい。 |
| 本間 | 昔は青年会とかがそれを担っていた。若い人と年配の人が一緒に話す場があった。 |
| 石阪 | 男性らしさが揺らいでいる中で、男性像を考える場は必要ではないか。昔はガンコ親父であったり、一家の大黒柱であったりと、父親のモデルがあったのでイメージしやすかったが、今は理想の父親 |

| | |
|-----|--|
| | 像が見えにくい。 |
| 清水 | イクメン講座の講師はどのような人がやっているのか。 |
| 下河邊 | NPOに依頼している。最近は専業主夫をやっている人をお願いしている。 |
| 西村 | 自分の周りではけっこう子育てしている父親も多い。父親の付き合いに子どもを連れてくることもある。 |
| 石阪 | 父子で何かやると、母親にとってもありがたいのではないかと。父と子で参加することは2重のメリットがある。絆づくりと、母親の育児開放がある。 |
| 乾 | 公園でも父と子でいることも多い。 |
| 石阪 | 父子でどこか行くようなセミナーがあるといい。 |
| 下河邊 | 今は父子料理講座がある。工作とかはない |
| 西村 | もっと時間を増やして母の負担を減らせるといい。そうなれば母親からの後押しも期待できるので参加率も上がるのではないかと。一日単位の講座を作ってほしい。 |
| 石阪 | 一日使った講座はそれなりにニーズはあるのかもしれない |
| 本間 | 今の父親は何をしたがるのか |
| 西村 | ゲーム世代が多いので子どもと一緒にゲームしている。 |
| 石阪 | 昔遊びもいいかもしれない。ベーゴマとか、テレビゲームではなく昔ながらのゲーム。 |
| 西村 | 今のうちにやっておかないと誰も教えられなくなってしまう。 |
| 石阪 | 学生にベーゴマをさせたときは結構夢中になっていた。 |
| 乾 | 将棋とか囲碁もいい。 |
| 石阪 | 父親の育児参加を促す事業の充実についての項目がそれにあたる。 |
| 本間 | 足立区のホームページにInstagramでの投稿はできるか。 |
| 下河邊 | 現状ではできない。 |
| 西村 | フォトコンテストにもたくさん投稿があるのではないかと。 |
| 本間 | フォトコンテストのためのInstagramでもいい |
| 石阪 | 投稿自体が少ないので、簡素化していく。 |
| 本間 | そこから区のホームページをリンクして見やすいようにすればページビューもアップする。 |
| 下河邊 | システム上や技術的に確認しないといけない。 |
| 猪野 | 足立区内の一日遊んでいられる場所や楽しむ場所が掲載されていてガイドブックがあるといい。 |
| 石阪 | 家事スキルアップ講座についてはいかがかと。 |
| 下河邊 | 参加する父親は家事ができる人が多い。 |
| 本間 | お片づけ講座があってもいい。 |
| 石阪 | 料理講座は参加が少ない。 |
| 下河邊 | 調理台の数が限られている。 |
| 清水 | 夫婦参加型の講座とはどのようなものか |
| 本間 | 家事を項目分けして負担割合を点数化したときに妻の負担が重いと気づいたという話があった。夫婦で家事を見直すのもいいかもしれない。 |
| 清水 | お金は無いけど家に帰れないフラフラするサラリーマン（フラリーマン）もいるので、公的な場所に夫婦でいけるのであれば意味がある |
| 石阪 | 若い夫婦だと、今は必ずしも遅く帰るのは男性とは限らない。お互いの役割を見直すための講座。 |
| 清水 | ワーク・ライフ・バランスというとな女性の働き方の話になるが、女性だけが意識しても現実的には家族やパートナーも理解しないとそのバランスは保てない。男性もワーク・ライフ・バランスを理解してもらおう。女性だけでは成り立たないところから出てきた話。 |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 乾 | 夫婦で学ぶワーク・ライフ・バランス。 |
| 石阪 | パートナーとワーク・ライフ・バランスを考えてもらう。 |
| | 年次報告書の作成について |
| 石阪 | 来年の区長に提言を持っていく前までに作成していきたい。 |
| | 第7次行動計画の途中経過について |
| 下河邊 | 前回の経過から変更した部分を説明 |
| 委員 | 今年度を振り返って委員より一言 |
| 石阪 | 以上で終了とする |